

# スマイルタイムズ

No, 202

## 本年も健康と笑顔で

院長 中山 茂樹

平成25年、明けましておめでとうございます。

昨年暮れに政権が民主党から自民党に代りました。するとすぐ税金が上がるということがことさら眼につきました。そんな中で果たして今後、明るい日本は来るのでしょうか。期待をしましょう。(するしかないのですから…)

新しい年が始まってどのメディアも取り上げている大きなニュースは、高校生の体罰による自殺と、アルジェリアにおけるアルカイダのテロによる10名の日本人の殺害でした。

世界の様相が変わって来ているのでしょうか。すでにいままでにあったものが現実には皆の眼に見えて来ただけなのでしょうか。のんびり平和ボケしている場合ではないのではないのでしょうか。先、先を読んで、日本を守っていかなければならない時期なのではと、思います。

小浜市も人口減少と高齢化が際立って進んでいます。特に昨年は出生率が福井県下では3~4%なのに、小浜市では10%という異常な減少でした。産業、生産性の低下、結婚年齢の高齢化などなど。明るい情報は見当たりません。

ここで、考えられるのは、いろいろの市町村が、均一化し、同じことを同じようにする時代は終わっているのではないかと言うことです。(町や村の、農産物などの、一品運動もよろしいのですが…。その一品を他の町村がまねをするとたちまち値崩れを起こしてしまいます)。だからどの市町村にも強い部分と弱い部分があるでしょうから、強い部分を売りにしてどんどん伸ばして行く方が各市町村同士で互いに助け合いがしやすくなるのではないかと思います。市町村の横のつながりを大事にすると言う、方向転換が要るように思えます。例えば小浜市なら陸、建物、海などの観光資源を近隣の町とタイアップして客を呼び込む。隣の町にある独自のものを小浜に来た客にその足で見に行ってもらうルートを創るとか。今後、なされそうな道州制の中で、各、市町村の得意な部分を伸ばして行くのがなによりいい方法のように思えます。

暗いニュースが多い日々ですが、笑顔を保つことが明るいニュースを増やして行くものだと思います。それと絶対に大切なのは健康です。先の横のつながり大事で、互いに健康と笑顔で暗い日本を明るくして行きましょう。

皆様、また今年一年、健康と明るい笑顔が保たれますよう、心からお祈りして、新年のご挨拶とします。

### 【学習】 院外処方高くついている

医薬分業の制度は西洋の国王など、権力者が陰謀に加担する医師により毒殺されることを防ぐため、病気を診断する医師と薬を管理する薬剤師を分けたことに由来します。そこから現代の医師独断処方による不適切な薬を排除し、さらに過剰な投薬(薬の出し過ぎ)を抑制するという政策で医薬分業の仕組みが出来たのです。

日本に於いては1951(昭和26)年、医薬分業法が制定されましたが院内処方は患者さんには便利なので(天候の悪い日、院から離れたところまで薬を買いに行くのは、お年寄りには特に大変です)、実際には1975(昭和50)年まで、実施されませんでした。しかし、欧米人は日本に来て院内処方に大変感心しているのが実情です。

ところが、薬九層倍(くすりくそうばい=仕入薬代の9倍で医療機関が患者さんに売る)とか揶揄されたりして、患者さんに多くの薬を処方すればするほど医療機関が儲かるという薬漬け医療が増えたので、1951年の法を死に体(しにたい)から生き返らせ、厚生省(現、厚生労働省)は薬価改定を行い、医療機関では薬で利益がでないようにし、院外処方箋を発行する機関には評価を高くして医薬分業が行きわたるように図りました。(現在、当院でも院内処方をしていますが、薬では全くと言っていいほど、利益を挙げてはいません)。

さて、何でも考えたことをやってみると違ってくることが多いもので、この法もまた、主旨、想定とは違った結果が出てきています。

医療機関が新規開業すると、すぐその隣に調剤薬局もでき(門前薬局)、それが複数になり、多数の薬剤の常時在庫、調剤機器の競争、薬剤師の確保、栄養士、理学療法士などまで配置して患者さんとの相談に乗ったりする差別化が進み始めています。しかし、建物の維持からお薬手帳の発行まで結構、院外処方に金が掛かっています。患者さんの金銭的な負担は増えませんが、調剤薬局には調剤基本料と薬剤服用履歴管理指導料など、処方箋1枚につき860円支払われます。

日本大手の製薬会社の社長が2億円の年俸に対し、日本大手の調剤薬局チェーンの社長はその2.3倍の年俸と報じられています。これが(で)よろしいのかな。(松井)

〈あとがき〉1) 当紙、前号は小浜に於ける年末(12/24)の42センチの大雪を記述しましたが今年に入ってから、難渋するほどはないので助かります。2) 当院のミニギャラリーは先月までの飛永博氏の花に止まる蝶の写真に代り、今月末からは山本美代子さん(若狭町小原)の押し花です。乾燥させた花卉の配置と配色、を工夫、とりどりに美しい画面にし上げた造形が素晴らしい。